



青南だより

令和7年3月号
港区立青南幼稚園
園長 石川 典子

今年度の本園は幼児期の教育を通して、幼児の主体性を大切に育み、「気付き・考え・行動する」体験を通して、『人と関わる力』『思考力』『感性』『表現する力』など、社会と関わる人として生きていくための基礎を培ってきました。幼児の成長は目覚ましく、3学期末を迎え、幼児自身が自分の成長に気付き、喜びや自信に^{あふれ}溢れ、進級・進学への期待に胸を膨らませていることをうれしく思います。

ユニセフ報告書「レポートカード16」発表の先進国38か国の『子どもの幸福度ランキング』では、日本の「子どもの幸福度」の総合順位は20位です。この総合順位は「精神的幸福度（生活満足度が高い子どもの割合、自殺率）」が37位、「身体的健康（子どもの死亡率、肥満など）」が1位、「スキル（読解力・数学分野の学力、社会的スキル）」が27位の3つの側面からのランキングです。日本の子どもは、「精神的幸福度」が38か国中37位という低いという結果となりました。

ある大学の研究では、「幸福度」につながる因子を4つ定義しています。

- ① **自己実現と成長**「やってみよう」……自尊心や自己有能感、自分の能力に対する肯定的な評価、人生の意義や目的の理解を示す。
- ② **つながりと感謝**「ありがとう」……他者に対する感謝や人の喜びを自分の喜びのように感じる。
- ③ **独立とマイペース**「あなたらしく」…自己を他者と比較しない傾向。
- ④ **前向きと楽観**「なんとかなる」……楽観性や制約の感覚のなさ。

この4つの因子は、本園が、幼児の主体的な遊びの中で、直接体験によって育んでいる非認知能力につながります。

次代を担う子どもたちの「ウェルビーイング（心身の健康や幸福）」を支えていくために、幼児期の教育に関わる本園のすべきことは、幼児の主体性や個性を尊重し、子ども一人ひとりが遊びや生活を十分に楽しめる保育を行うこと。幼児の自己肯定感を育み、自分を「かけがえのない存在、価値ある存在」として自分自身で認めることができるようにすること、です。全ては日々の質の高い教育の実践にかかっています。年度末に改めて気を引き締めます。

保護者・地域の皆様には、今年度1年間、本園の教育にご理解・ご協力いただいたことに深く感謝申し上げます。

青南幼稚園は、3年間の発達を見通した質の高い教育活動を推進しています

○目指す幼稚園像

- ・子どもとの応答的な関係を大切にし、共に創り出す遊びや生活を通して、子どもが安心して伸び伸びと育つ幼稚園

（港区立青南幼稚園 経営方針 目指す幼稚園像より抜粋）

